



## 国際平和のために、自分たちができること

校長 古屋 澄人

6月27日(火)「青葉区よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」が青葉公会堂にて行われました。テーマは、「国際平和のために、自分たちがやりたいこと」です。青葉区31校の代表の子どもたちは、17の目標を視点として自分たちができる国際平和について日頃から考えていることや体験を通して感じたこと、それを実現するために自分たちができることについてスピーチしました。

主な視点としては、・貧困をなくす・健康と福祉・質の高い教育・ジェンダー平等・安全な水とトイレ・エネルギーをみんなに・産業と技術革新・人や国の不平等解消・まちづくり・責任・気候変動・海、陸の豊かさを守る・平和と公平・パートナーシップです。本校では、6年生の三浦 凜風さんが代表として参加しました。スピーチのテーマは「夢の先にある未来」でした。三浦さんのスピーチの中で「思いやりをもとう、男女仲良くしよう、差別を減らそう・・・(途中省略)小学生の子どもたちがクラスの課題として出した意見が、この広い世界に足りないことなのです。」という言葉が印象に残りました。身近な出来事に問題意識をもち、それを皆で解決していきたいという思いが伝わってきました。

他校の子どもたちの主なスピーチは、「世界で起こっている戦争をなくすには」「すべての子どもたちが安心・安全に過ごすには」「よりよい環境つくるには」などをテーマとした内容でした。どの学校の子どもたちも、体験したことから日々自分が実践していることをもとにし、未来に向けて自分ができることを伝えていました。戦争について問題意識をもっている子どもは、自分たちの生活の中からはじめ「いじめ」をなくすこと、文化の違いが原因であるならば、互いの文化を理解し合うことが大切であると主張していました。環境について問題意識をもった子どもは、現在の豊かな生活を当たり前と考えるのではなく、それに感謝しつつ無駄をなくしていくことが大切であると主張していました。

国際平和という視点はあまりに大きいテーマではありますが、子どもたちは身近な生活をもとに問題点を見出し、それを見直していくことから始めようとしていました。そして、それを教室から地域へそして世界へ広げていきたいという思いが伝わってきました。子どもたちの問題意識の高さに驚くとともに、それを実行していきたいという熱い思いに感動しました。

さて、6月24日のスクールオープンデーでは多くの保護者および地域の皆様にご参観いただきありがとうございました。日頃の子どもたちの授業や生活の様子をじっくりとご覧いただくことができたのではないかと思います。また、PTAの皆さんが企画・運営した「球舞・CUBE」によるパフォーマンスも大盛況のうちに終了することができました。ありがとうございました。参加した子どもたちは興味をもってパフォーマーと触れ合うことができました。また、「『まち』とともに歩む学校づくり懇話会」では委員の皆様と、子どもたちの授業の様子や地域での様子について話し合いを行いました。委員の皆様にはご多用の中ご参加いただきありがとうございました。いただいたご意見は、今後の学校経営に反映していきたいと考えております。

